

院内に充て、院外に溢にけり、

〔山陽遺稿山陽先生行狀〕文政元年戊寅二月、春水先生大祥忌、歸展于廣島、喪除、遂游鎮西、從豐筑入

肥、留長崎二月、強南極薩隅、明年春、歸廣島、奉母夫人入京、侍遊芳野、寧樂諸勝、秋送至廣島、爾後西省

無虛歲、後數迎之、侍游伊勢及琵琶湖等、

懷舊

懷舊ハ、往時ヲ追想スルヲ謂フ、凡ソ懷舊ノ事タル、其範圍極テ廣ク、悉ク舉グルニ堪ヘズ、而

シテ舊都ノ荒廢ヲ嘆ズル事ノ如キハ、地理部皇都篇舊都條ニ載セタレバ、宜シク參照スベ

シ、

〔運步色葉集久クワイキウ〕懷舊

〔書言字考節用集八言〕懷舊

〔日本書紀七景行〕四十年十月癸丑、日本武尊發路之、中略自甲斐北轉、歷武藏、上野、西逮于碓日坂、時日

本武尊、每有願弟橘媛之情、故登碓日嶺、而東南望之三歎曰、吾孀者耶、孀此云菟摩故因號山東諸國曰吾

孀國也、五十三年八月丁卯朔、天皇詔群卿曰、朕願愛子何日止乎、冀欲巡狩小碓王、日本武尊所平之

國、是月、乘輿幸伊勢、轉入東海、

〔日本書紀八仲哀〕元年十一月乙酉朔、詔群臣曰、朕未逮于弱冠、而父王既崩之、乃神靈化、白鳥上天、仰望

之情、一日勿息、是以冀獲白鳥、養之於陵域之池、因以觀其鳥、欲慰願情、則令諸國、俾貢白鳥、

〔古今和歌集十五戀〕五條のささぎの宮のにしのたいに、住ける人に、ほいにはあらで、物いひわたり

けるを、む月のとをかあまりになん、ほかへかくれにける、あり所は聞けれど、え物もいはで、

懷舊例

名稱